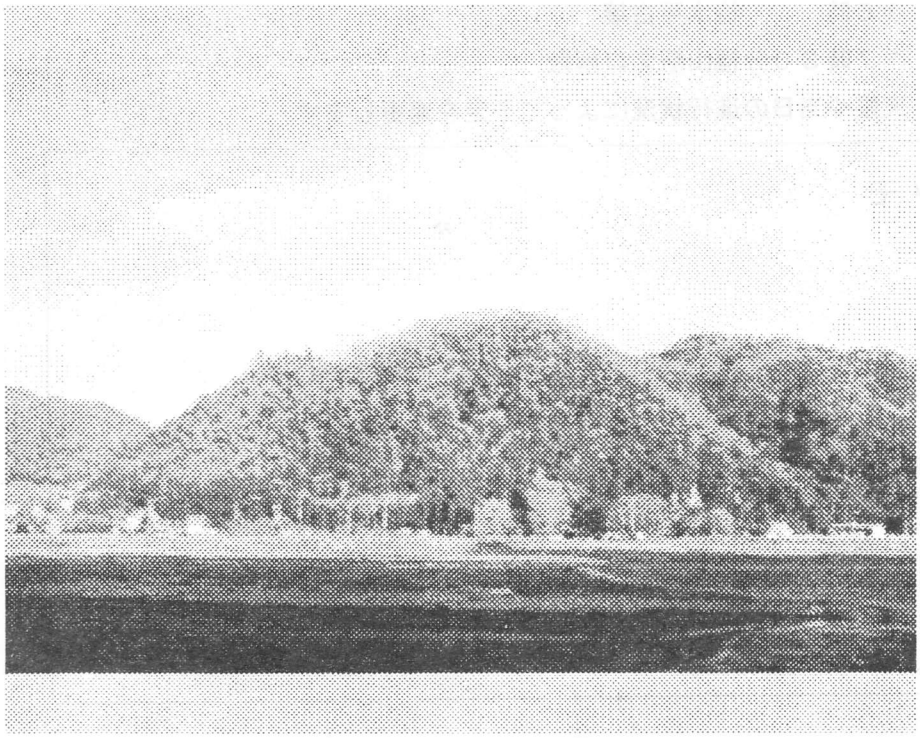
備陽史探訪の会2月例会

安芸の小京都竹原の町並みと国人小早川氏興亡の跡を訪ねて

講師　会長　田口義之



平成１７年２月２０日実施

備陽史探訪の会

スケジュール

○　8時20分　福山駅北口観光バス乗り場発
○　9時３０分　米山寺
○　１０時４５分木村城跡（徒歩）
○　１２時　　竹原町並み保存地区（昼食）
○　１３時３０分同上　発
○　１３時４５分竹原小早川氏墓地・手島屋敷
○　１４時３０分本郷古墳の散歩道（二本松・貞丸・御年代古墳）
○　１６時　　梅木平古墳
○　１７時３０分福山駅北口解散
※　天候や当日の進行状況によって予定を変更します

メモ

※注意

時間厳守・ゴミは持ち帰ること

米山寺　三原市沼田東町納所

仁平３年（１１５３）に天台宗の寺として建てられた寺院で、嘉禎元年（１２３５）小早川茂平が念仏堂を建立して氏寺とした。以来、小早川家の菩提寺で初代実平から１７代隆景までの宝篋印塔（国の重要文化財指定）２０基の墓が整然と並んでいる。また寺の宝庫には絹本著色小早川隆景像（国の重要文化財）がある。

絹本著色小早川隆景像

安土桃山時代（1573～1602）の文禄３年（1594）に描かれた小早川隆景の寿像（じゅぞう）。京都大徳寺の塔頭（たっちゅう）黄梅院の玉仲が賛を記している。中啓（ちゅうけい）を持ち黒の袍（ほう）をつけて座した束帯の姿である。

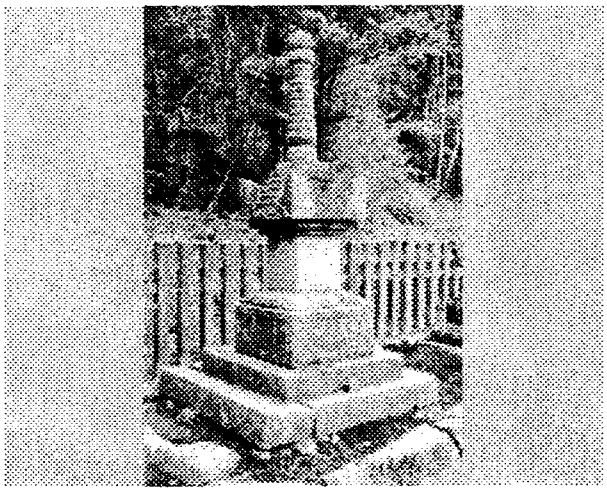
この画を伝える米山寺（べいさんじ）は小早川氏の氏寺であった。

米山寺宝篋印塔

沼田小早川氏の墓所の北東隅にあり，墓地内ではひときわ大きい石塔である。鎌倉時代・元応元年（1319）「大工念心」によって造られた。温雅の感があり美しい意匠であり，鎌倉時代末期（14世紀前半）の宝篋印塔の秀作である。塔身に「大工念心　元応元年己未十一月日　一結衆敬白」の刻

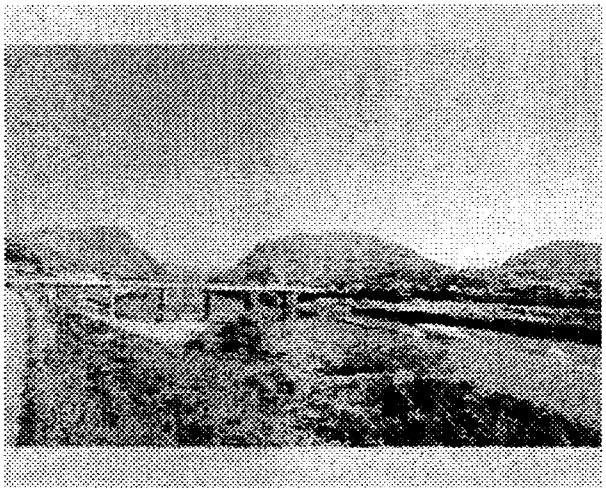
銘がある。

米山寺は沼田庄地頭小早川茂平が嘉禎元年（1235）に建てた氏寺で，小早川氏歴代の墓（石造宝篋印塔20基）が立ち並ぶ。



小早川氏城跡（高山城跡，新高山城跡，三原城跡）

三原市・本郷町



中世安芸南部の国人領主・小早川氏に関わる一連の城跡である。小早川氏の本拠であった高山城跡や，高山城から16世紀半ば頃に移った新

高山城跡，中世末期（16 世紀後半）に築城された近世城郭である三原城跡からなる。

高山城：標高 190mの山上は広大で，本丸・北の丸・太鼓の丸・千畳敷や裏木戸にあたる犬通しの石垣などがある。

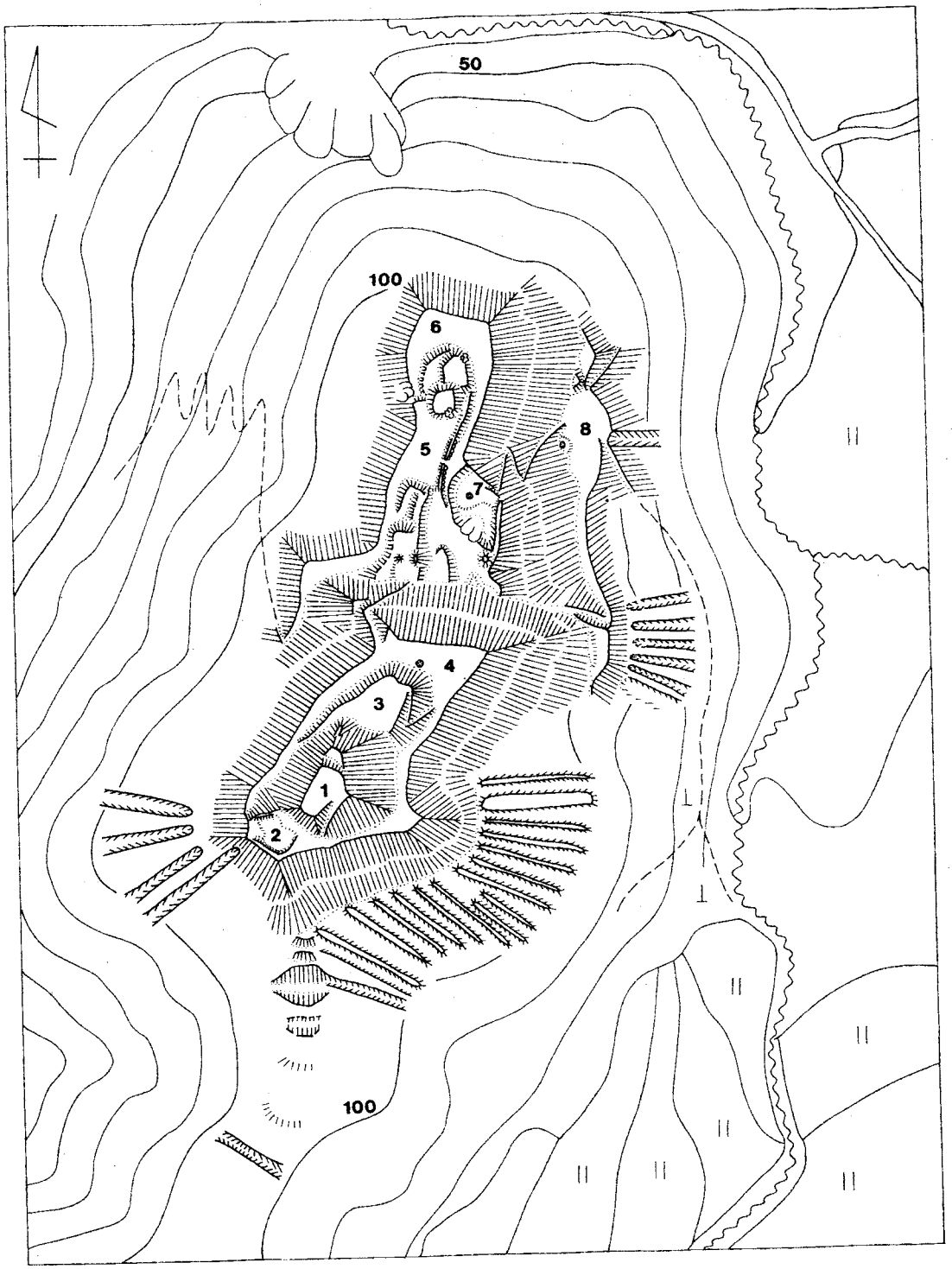
新高山城跡：高山城と沼田川を挟んでほぼ等高に位置し，小早川隆景が天正年間（1573～1591）に三原城を築いて移るまで本拠とした。山上には，本丸・東の丸・中の丸・西の丸などの郭や各所に石垣や土塁が残っている。東の丸と中の丸の間の低地の井戸郭には大小六つの大井戸跡が，山腹には菩提寺跡がある。

三原城跡：小早川隆景が築いたもので海に向って舟入りを開き，城郭兼軍港としての機能を備えている。三原浦の南の海上にあった大島・小島を基盤として築造されたもので，既に天文年間（1532～1554）の末には三原要害が築かれ，永禄 10 年（1567）には本丸・二の丸・三の丸・舟入りなどが整備され，天正元年（1573）には隆景はこの城に前進して指揮をとっている。小早川氏の移封後も福島氏，浅野氏の支城となった。

木村城跡　竹原市新庄町字城の本

木村城跡は，竹原小早川氏が本拠とした山城跡である。小早川氏は，鎌倉時代の初め（13 世紀前半）沼田庄の地頭職をえて相模国の本拠から西遷し，承久 3 年（1221）に起こった承久の変の後に，竹原小早川家が創設され，正嘉 2 年（1258），茂平の次子政景が都宇・竹原庄に分立した。さらに応仁の乱（1467～77）後は惣領家をしのぐ勢力となり，13 代隆景のとき沼田本家を相続し，本拠を沼田高山城に移した。

城跡は，本丸，二の丸，三の丸など 12 以上の郭からなり，井戸，土塁跡なども残っている。北側は，末宗川，西側は賀茂川に狭まれた天然の要害となっている。



木村城跡略測図（S＝1：2,000）

竹原市竹原地区伝統的建造物群保存地区

竹原市竹原地区伝統的建造物群保存地区は，竹原の中心の本町（ほんまち）通りに沿った町筋で，江戸時代初期（17 世紀前半）に形成された町である。通りに沿う建物は，二階建て，切妻造，瓦葺の塗屋造りの町家で，大半が江戸時代中期（17 世紀後半～18 世紀前半）から明治時代に建てられている。妻入りと平入りが混在し，また街角には入母屋造の建物があって，町並みに変化を与えている。町家の正面意匠も出格子（でごうし）・平格子，あるいは千本格子と多様であるが，格子の連続する町並みは落ち着いた中にも華やかさをもつ統一したたたずまいを見せる。大規模な家では広い庭をつくり，奥座敷や茶室を設け，竹原の町人文化の様子が窺い知られる。この地区は塩業を基盤として発展した町で質の高い町家が連続し，町並全体の意匠もすぐれ，瀬戸内海沿岸の伝統的な町家群の好例である。

頼惟清旧宅　竹原市竹原町字本町北

惟清（これすが）は名を又十郎といい，文運の盛んな竹原の町に紺屋を営んでいた。和歌をよく詠じ，天明 3 年（1783）77 歳で没した。その子春水（山陽の父）・杏坪（きょうへい）は，ともに学者として名高く広島藩の儒官となった。また二男の春風は竹原の家を継ぎ，医業をこととした。今日，竹原の旧宅は，頼家発祥の地として旧状を保っている。旧宅は，重層，屋根入母屋造，本瓦葺の主屋と，南に接する単層屋根，切妻造，本瓦葺の離れ座敷からなっており，双方とも塗籠造（ぬりごめづくり）である。主屋の道路側八畳の間が紺屋の店であったものと思われる。

竹原小早川家墓地

宝篋印塔（ほうきょういんとう）約１０基、五輪塔約 20 基ほどがあります。城の西北の方角にあたることからみても竹原家の墓地にまちがいない。殆どが中世末期の様式で、この上の尾根に二

基の宝篋印塔は隆景の養父の竹原小早川興景（おきかげ）夫婦の墓と伝承されている。竹原小早川家菩提寺の法常寺（現、三原市西町）にも宝篋印塔や五輪塔の残欠がある。

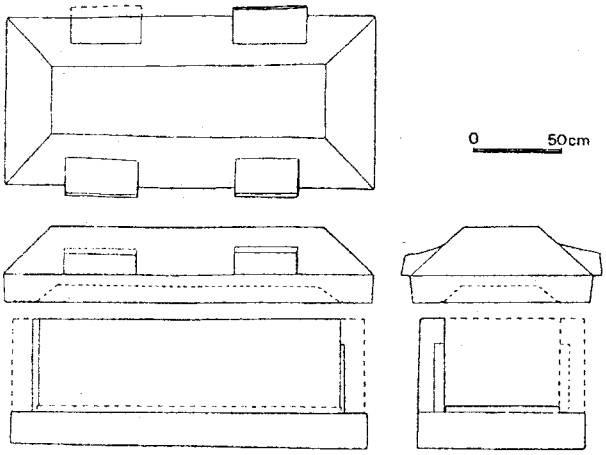
手島屋敷

間口約５０ｍ、高さ３ｍの石垣、石垣の両隅は桝形が切られ、中世の武家屋敷の遺構である。かっては「西殿（にしんどん）屋敷」（西の殿屋敷）とよんでいた。小早川氏が竹原を去って以後、竹原小早川家の家臣であった手島氏がその屋敷と居館をうけついだものと想像される。中世城館調査では「居館候補地」としてあげられている。

二本松古墳

石棺は露出し、分解されて南方神社拝殿の踏石や手水鉢に使われていたが、地元の人達によって元通りに復元された。兵庫県産の竜山石が使われてお

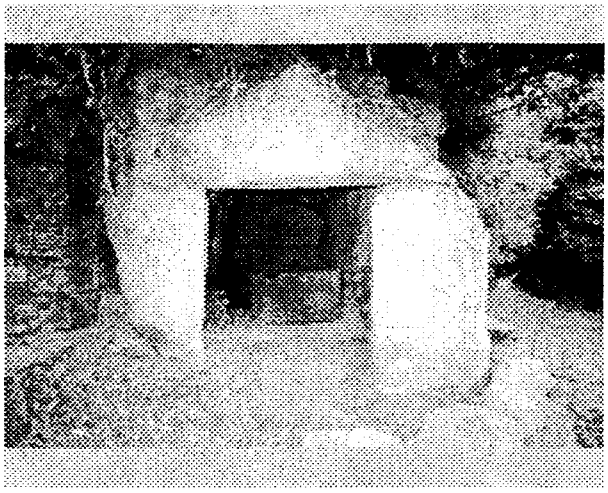
り、石棺の蓋石に縄掛突起がついている。



△家形石棺実測図(『草戸千軒』No.132より)

貞丸古墳　豊田郡本郷町南方字貞丸字二本松

御年代古墳(史跡)の西南約500mの丘陵斜面に南面して築かれた円墳で，横穴式石室を内部主体とする。石室は羨道部が大きく破壊されており，玄室部の長さ4.37～4.93m，幅2.09m，高さ2.15mが残る。しかし，南端の両側の石が柱状に立てられ，それに鴨居状の石がわたされているところからすると，その先は羨道(せんどう)ではなく前室となる可能性もある。玄室内には，長さ2.15m，幅1.15m，高さ60mの凝灰岩製の刳抜式（くりぬきしき）家形石棺の身がおかれている。蓋の所在はあきらかでない。この凝灰岩製家形石棺は，兵庫県高砂市付近に産出する竜山石で，播磨から運びこまれたとみられている。7世紀前半頃の古墳と推定される。



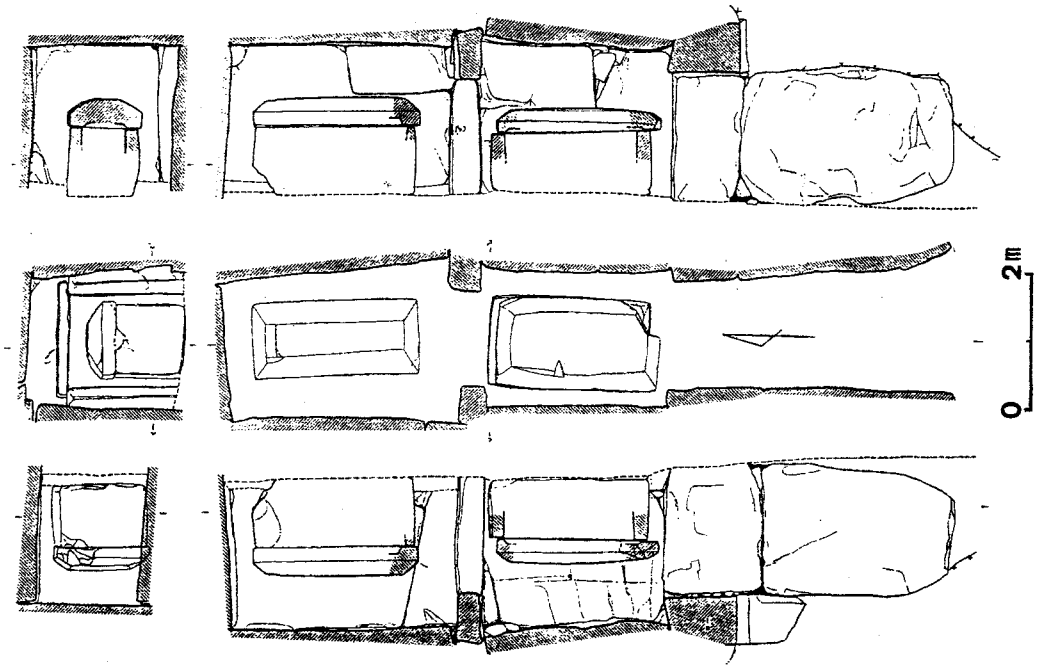
貞丸第二号古墳　豊田郡本郷町南方字貞丸

貞丸古墳の北上手約20mの位置に，南面して築かれた円墳で，横穴式石室を内部主体とする。石室は羨道（せんどう）部が破壊されており，現存の長さ5.1m，幅2.12m，高さ1.97mで，石室の構造・規模・方向など貞丸古墳に共通するところが多い。内部に組合式(くみあわせしき)家形石棺が安置されていたといわれ，現在貞丸古墳の東にある石碑の台石に家形石棺の蓋が使用され，側石材も大日堂の踏石や墓地に散在する。石棺蓋には，本来六個の縄掛突起を有したものと推定される。石材は凝灰岩で，竜山石製と考えられる。7世紀前半の古墳と推定される。なお，貞丸古墳の南西方200mにある南方神社に，家形石棺の蓋石，底石，長側石などが存在するが，その出土地は明らかでない。

御年代古墳（国史跡）　豊田郡本郷町南方

沼田川に注ぐ尾原川の奥まった谷の南面する丘陵端に位置する。封土はあまり明瞭でないが，円墳と考えられる。内部主体は花こう岩の切石で築かれた整美な横穴式石室で，後室，前室，羨道からなり，各室に花こう岩製の刳抜式家形石棺が納められている。全長10.7m，後室は長さ3.6m，幅1.9m，高さ2.2m，前室は長さ3m，幅2.2m，高さ

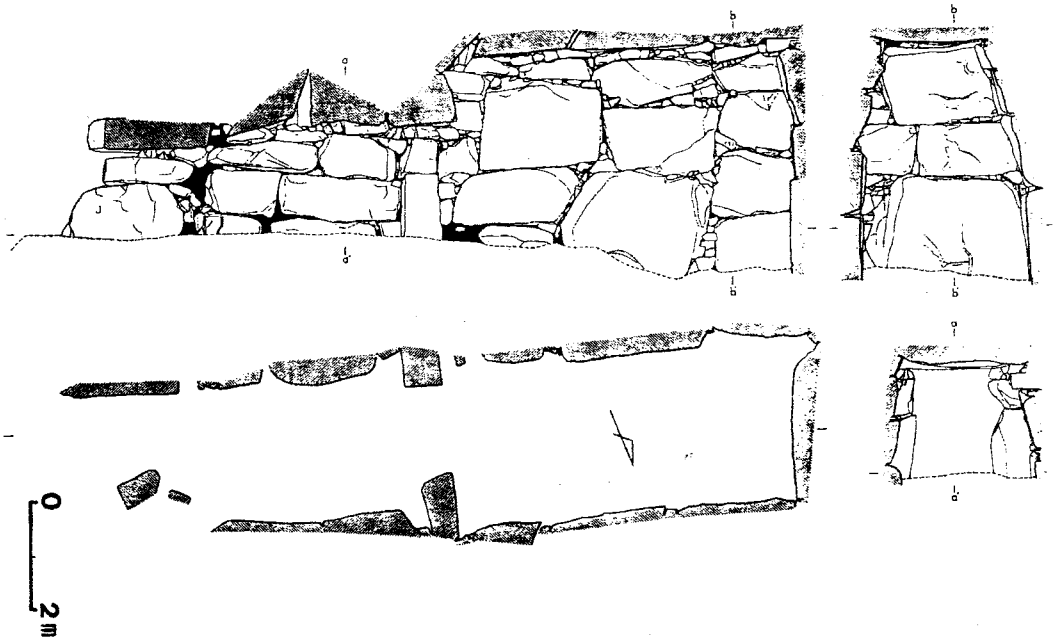
2.2m，羨道は長さ 4.1m，幅 1.55m，高さ 1.9mである。家形石棺はいずれも縄掛突起がなく，前室の蓋の棟は幅広扁平である。出土遺物としては，金環，金銅製馬具，須恵器などがある。出土遺物や家形石棺などから，7世紀中頃の古墳とみられている。全国的にも注目される古墳である。

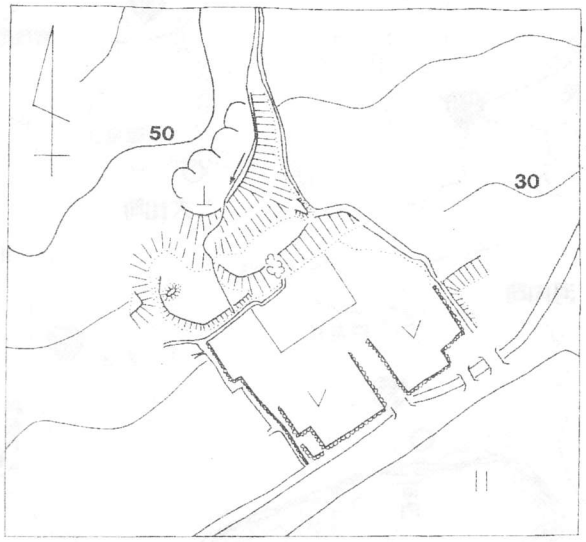


梅木平古墳（県史跡） 豊田郡本郷町大寺下北方

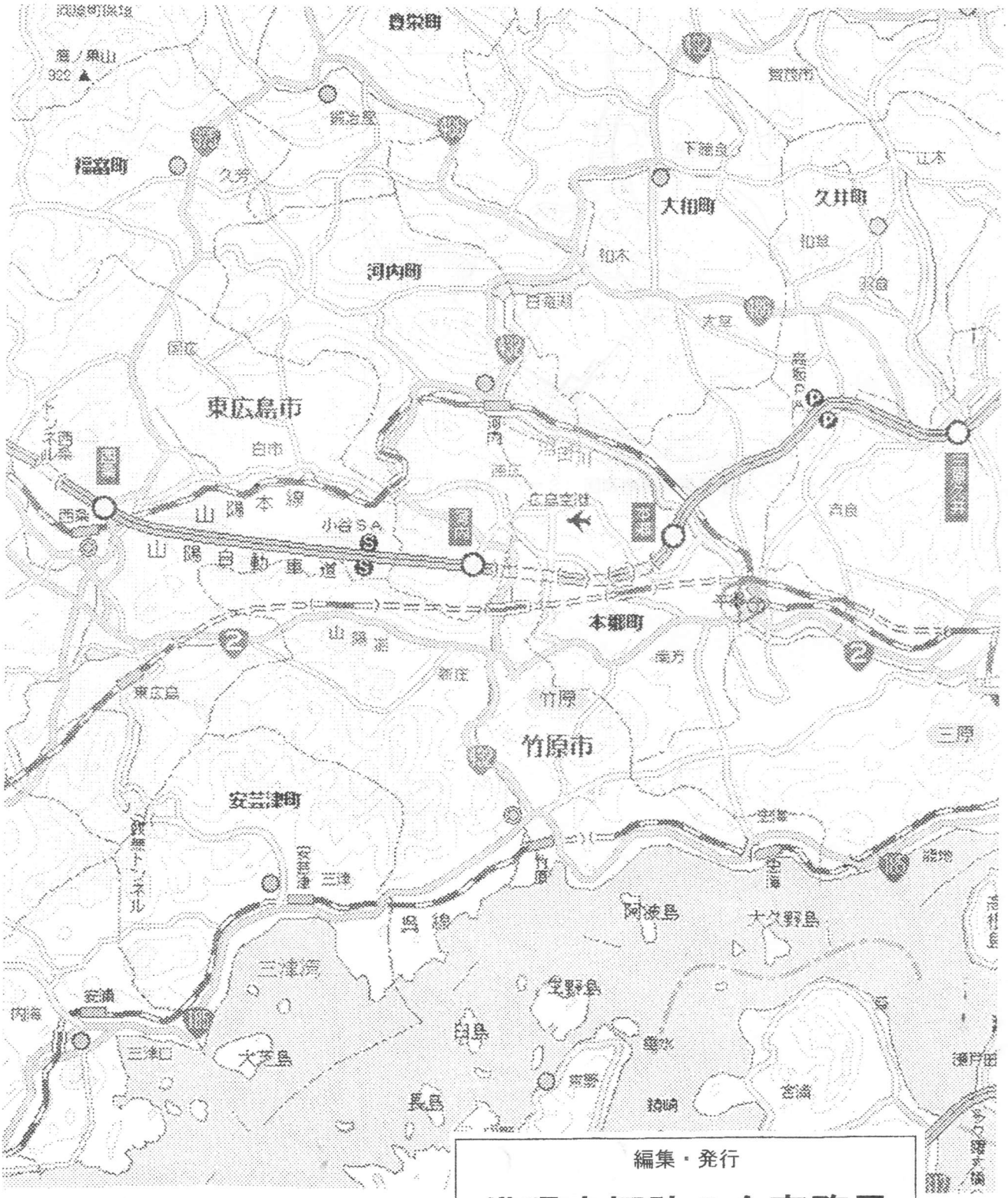
本郷町の沼田川中流にそそぐ梨和川・尾原川の狭い谷間には，家形石棺などを納める特色ある横穴式石室墳が分布し，梅木平古墳はその東端の南面した丘陵端に位置する。墳丘は周辺が畑となり，規模は不明

であるが円墳と思われる。県内では最大規模の横穴式石室を内部主体とし，現存の全長 13.25m，奥壁幅 3.02m，高さ 4.21mで，入口部分が破損しているので，もう少し長くなろう。両袖式の石室で，玄室と羨道部の天井部の高さの差が著しい。7 世紀初頭前後の古墳と推定される。墳丘の小堂には平安時代（794～1184）の仏像 2 体が安置され，古墳の東約 200mには，白鳳時代（7 世紀後半）の寺院跡である横見廃寺跡（史跡）がある。





手島屋敷跡略測図（S＝1：2,000）



編集・発行

備陽史探訪の会事務局

〒720-0824　福山市多治米町 5-19-8

TEL（０８４）９５３－６２１５